

大型計算機センター（現情報基盤センター）の設置

昨年6月から、ES総合館の南にあり、保健管理室と隣接する情報基盤センター棟の耐震改修工事が行われており、来月、完成する予定です。この建物が大型計算機センター棟として新築されたのは、1971(昭和46)年のことです。

大型計算機センターの設置は、1963年及び1965年の日本学術会議の政府への勧告で提言された、今後の学術研究の進展に不可欠である大型高速電子計算機を旧帝大の七大学に置き、これらを全国の大学等の研究者に共同利用させるという構想が具体化したものです。これに伴い、1965年に東京大学、1969年に東北・京都・大阪・九州大学、1970年に北海道大学に大型計算機センターが設置されました。

名大では、1970年度概算要求が認められると、1970年2月にセンターの設置準備委員会が正式に発足しました。検討事項が多岐に渡るため、その下に機種選定・建物・運営方式・広報の4つの小委員会を置き

ました。また、同年3月には、東海地区の利用者にアンケートを実施しています。そして、翌1971年4月、名大に全国共同利用施設として大型計算機センターが設置されました。センター長の下、研究開発部（1971年10月現在スタッフ7名）と事務部（同20名）が置かれました。

センター棟（延べ面積3,460m²）は、1970年9月に着工し1971年5月に竣工、9月に開所式が挙行されました。これが、耐震改修工事前の情報基盤センター棟の東側部分（本館）です。

その後、計算機システムの更新增強により、程なく建物が手狭になりました。増築要求はなかなか認められませんでした。関係者の尽力がようやく実を結び、1985年9月に新館（延べ面積770m²）が竣工して、耐震改修工事前の姿になりました。

この時、新館が建てられた場所にあった警務員詰所が、現在の総合案内所の位置に移動しています。



- 1 設置当時の大型計算機センター。
- 2 センター設置時に導入されたシステムI (FACOM230-60 計算機システム) の中央処理装置。そのほかシステムII (FACOM230-35) もあった。
- 3 システムIのコンソール。
- 4 新館完成後の大型計算機センター (1989年撮影)。
- 5 耐震改修工事中の情報基盤センター棟 (2019年1月11日撮影)。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) あて (電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお願いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金



<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

アクセスはこちらから▶

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

